

令和元年度第1回宮崎県立図書館協議会議事録

期 日	令和元年8月7日（水）午前10時から午前11時30分まで	
場 所	宮崎県立図書館2階研修室	
出席者	委員	議長：根岸裕孝委員 委員：柏田須美委員（副議長）、土肥隆夫委員、廣瀬宏子委員、川路善彦委員、結城美佳委員、小久保利博委員、中嶋由香委員、長谷川恵子委員 計9名
	生涯学習課	佐藤主幹、佐藤社会教育主事
	図書館職員	中原館長、甲斐副館長、野邊専門主幹、山田総務・企画課長、堀永情報提供課長、阿波野総務担当主幹、清家企画担当副主幹、曾我部普及支援担当主幹、安藤資料管理担当主幹、崎田郷土情報担当主幹、加藤情報提供担当主幹
	傍聴者	なし
会 議 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開 会</li> <li>2 館長あいさつ</li> <li>3 委員・職員紹介</li> <li>4 日程説明</li> <li>5 議長・副議長選出</li> <li>6 議 事             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 報告事項                 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 宮崎県立図書館の現状について</li> <li>② 図書館評価について</li> <li>③ その他</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>7 閉 会</li> </ol>	
記録	総務・企画課	

## 1 報告事項説明

- ① 宮崎県立図書館の現状について
- ② 図書館評価について
- ③ その他

以上について事務局から説明を行った。

## 2 質疑応答・意見交換

図書館評価について、事務局からの報告を受けて次のような質疑応答・意見交換が行われた。

### 【委員】

「知の共有・創造」の場の自己評価がCになっている。一部課題ができていないということだが、もう少し具体的に教えていただきたい。

また、本県の言語文化に関するところについて、BやAにするにはどういう風にしようと思っているか、教えていただきたい。

### 【事務局】

「知の共有・創造」の場の提供については、「理科読」などの事業を行い、科学に関する本を紹介しているが、昨年度の図書館協議会で委員の方から他の機関でも同じような事業を行っているという指摘があった。「理科読」が「知の共有・創造」の場、新しい知が生まれるような深い学びを指す、ラーニング・コモンズ的な場か、まだ検討の余地があるということによってCとしている。

語り部の事業については、これまで90名の語り部を養成したがまだ基礎的な段階にある。今後は語りを披露する場を設け実際に語り、スキルを高めていこうとしている。

### 【委員】

評価の仕方に基準を設けていただきたい。例えば、一定の成果が出ている【A】は、どこまでどうなっていたら一定の成果というふうに評価されているのか、どこまでだったら一部の成果が上がっていないと評価するのか、自己認識は大事だが外部評価で我々がどう評価すればいいのか。

### 【委員】

どこまでしていれば、どう評価するのか。内部評価ではどう評価するのか。数値目標があれば判断しやすいが、今回の場合は数値で細かく数値目標を設定するのは難しいということだろうか。

【事務局】貸出冊数など目に見える部分は数値目標を設定しているが、例えば市町村職員等からの意見、声などで評価の判断材料にしている。

**【委員】**

来年度以降、それぞれの評価の判断根拠、課題、今後の方向性を示してもらいたい。

**【委員】**

今のままでは外部評価するには決めにくい。評価はいかに数値化していくかである。根拠となる資料を出してほしい。自己評価する判断基準をA B C Dだけでなく、細かく出さなければ評価しがたい。

方法を決め図書館内部で何名で評価し、どの評価が何名だったなどについてまとめた形で出していただきたい。

**【事務局】**

評価の様式について今後検討したい。今年度の評価については数値目標で表せるものがあれば内容を検討し、そのほか明確な根拠があれば整理したい。

**【委員】**

今年度検討できるものは追加し、来年度改善をお願いしたい。

**【委員】**

多岐にわたる施策、事業があるので、評価に数値目標を設けるのは難しいと思う。

**【委員】**

資料を見て県立図書館がたくさん取り組んでいるのを知った。ありがたいが、例えば図書館の先進館等に視察に行き参考にしているものもあるのか。

**【事務局】**

先進館には、館長はじめ、ほぼ毎年職員を派遣している。ボリュームや件数では先進的などころには追いつかないが、先進館に並ぶ事業メニュー、利用者等へのサービスレベルは保っていきたいと考える。数字で比べると、本県の場合は項目によるが47都道府県立図書館の中で真ん中くらいにある。それぞれ人口規模等があるため、それが単純に評価に反映できるかという点で難しい。いわゆるソフト的な面についてはできる取り組みは行っている。

**【委員】**

評価項目「図書館ネットワークを支える人財の育成」の「専門的なサービスを支える人財養成」は考えているのか。

**【事務局】**

昨年度は1名の職員が司書講習を受講し司書資格を取得し、図書館として指導者的立場の人材を育成する研修に、職員を1名派遣している。このほか、障がい者サービス、青少年サービス、レファレンスサービスの研修などについて、県内の公共図書館、公民館図書室の職員全体の資質向上を目指した研修を行っている。

### 【委員】

「専門的なサービスを支える人財の育成・確保」の自己評価がCということだが、まず、市町村立図書館の支援をするために県立図書館が存在するところもあるため、そこがCというのは危機的であり、もっと取り組んだほうがいいのではないか。

全国で数値的には真ん中位の位置ということだが、視察等を館長だけでなく、研修等で何人かが同じ場、空間を共有するといいかと思う。

### 【事務局】

館内で県外に予算をかけて司書講習に職員を派遣しているがやっと1名分の予算をとって送り出している現状である。この自己評価の「C」はそうした専門の勉強をした職員が、例えば3年とか5年とかしっかりと図書館に根付いてその知識なり経験を県内の市町村図書館の皆さんに行き渡らせられるような人事配置や事業の組み立てが十分ではない、というところでのものである。研修は行っているが、その後の活用、配置、その点においてのCという、まだまだ努力するところがある、ということである。

### 【委員】

一番気になるのが大項目の「図書館ネットワークを支える人財の育成」というところである。職員の人材育成によりスキルをあげていくことは、人同士だけではなく情報をつなげていくこと、スピーディーな対応とつながり、重視している。研修はしているだろうが、今県立図書館に司書は何名いるのか。

### 【事務局】

正職員26名のうち司書が7名、非常勤職員18名のうち司書が13名、22条職員4名のうち司書が1名いる。全職員49名のうちの21名が司書である。総務管理の部門の職員を除けば専門的サービスを行う部門の中では半数くらいの司書が確保できている。正職員の配置、人事という制約があり、非常勤職員については予算の制約もある。司書がもっと必要だという認識はある。

### 【委員】

今も司書は大切な存在だが、調べ学習も始まった中、これからより大切な存在になってくる。パソコンの検索は検索結果のページを見たら終わりだが、司書は、それが広がるようなことが伝えられると考える。その広がりの中から子どもたちはもっと多くのものを拾い上げていく。司書にたくさんの情報を持つため、色々な経験をしてもらい、そこからちょっとしたアドバイスができて、子どもたちの学びが広がるというのが大切なのではないかと思う。

### 【委員】

この専門性、司書の数は図書館の評価でも、これまでも非常に重要だと指摘を受けているところである。評価するにあたっては、増やすのは大変だろうが、一年で何名ずつは増やしたい等、外部評価する立場とすれば、これで専門性があがって安心だ、というようなものが見えるようにしてもらいたい。図書館のビジョンでも人事とローテーションについては特段の配慮をするとある。やはり図書館の命は専門人材である。しっかり県立に専門的人材が在籍して活躍することが非常に重要だと思う。

【委員】 毎回人材のことをお伝えしている。本当は生え抜きのプロパーがいるのが理想だが、県の人事の中で人材の確保が難しいのであれば、今いる職員を鍛えて頑張ってもらうことになるだろう。図書館で一度勤務し司書の資格をとり、研修等に行った職員が、商工労働部や教育委員会等に異動し、ネットワークを広げてまた図書館に戻り活躍するという人事は行われているのか。

【事務局】 今現在の職員の中にも知事部局からの出向の職員がおり、中には司書資格を持っている者もいる。職員個々人の持つ能力なり経験なり極力生かせるような形で人事は行われる中、我々図書館の現場ではそういった人材を集めるためのやりとりは毎年行っていくべきであり、その結果不十分であれば、もっと声を出していかなくてはと思う。

### 【委員】

教育現場では総合学習、アクティブ・ラーニングが進み、アクティブ・ラーニングを進める上で図書館の役割は大きい。大学入試制度が変わっていく中、読解力が非常に重要である。数学の試験も読解力がないと解けない。学校現場でどう読解力をつけられるかどうかが大学の進学実績にかかる状況がそこまできています。その中で、県立図書館が県立高校に対して、アクティブ・ラーニングほか、読解力を高めるため、どんな取組ができるかということは非常に重要である。資料を見ると高校を支援する学校司書コーディネーターが存在しているようだが、その活動がどうなっているのか。「探究」学習の発表を聞く機会があるが、その発表を聞くと、学校図書館のどんな本でどう読みこみどう考えたのか不安になることがある。県立図書館の役割が高校教育の質に関わってくることがあると思うが県立学校支援の状況を教えてもらいたい。

### 【事務局】

本庁のほうで、現在県内の高校を6つのエリアに分け、学校司書エリアコーディネーターがそれぞれの中核校に1名配置されている。今、来年度に向けて、このエリアコーディネーターの活動を県立図書館としてしっかりサポートしなければいけないという認識を持っている。どういった形でサポートするか、今現在、県立学校の図書館の資料が十分なのかという確認はもちろん必要であるが、コーディネーターの活動をまず、図書館としてフォローしていく、コーディネーターを窓口に各エリアの仕掛け人として我々がサポートしていくことで、それぞれのエリア一つ一つの県立高校の学校司書との関わりを持っていき

たいと思う。市町村とのネットワークだけでなく、県立学校の司書とのネットワークも意識の中にある。新しい学習指導要領改訂が実施の段階に入っていく中で、「主体的・対話的で深い学び」という文言が使われ、県立図書館が目指す部分に、同じくするものもある。県立図書館として、学校の司書とのネットワーク、支援するという意識を持って取り組んでいきたい。それを具現化するために今、来年度に向けて計画を進めているところである。

#### 【委員】

今総合学習やアクティブ・ラーニングなど、県立高校から大学に依頼がよくある。よくあるテーマは、「グローバル化」、「観光」、「インバウンド」、「第6次産業」、「中心市街地活性化」であるが、これらに関する本が高校にはほとんどそろっていない。基本的な文献をおさえた上で、論文のほうにいかないといけないのに、インターネットで極論をひっばってきたり、研究の前提条件関係なく、町の人へインタビューしたりしている。もう少し、方法論、学んでいく上での基本的なスキル、情報の集め方については図書館で学んでいくべきだと思う。ぜひ県立高校と連携し、文献の調べ方、町の再生、グローバル化、観光に関する本などを充実してほしい。

#### 【委員】

現在勤務校に学校司書エリアコーディネーターが配置されている。本校には探究に関する学科があり、図書館で色々調べたりするのだが、県立図書館のマイラインサービスを使えるようになり、本を送ってもらっている。色々な本を借りられるので、ありがたい。しかし、私自身が最近まで知らなかったように、高校側でこのサービスを知らないのではないか。もっとこういうサービスの活用について呼びかけてはどうか。

#### 【事務局】

マイラインサービスについては、接続できる学校を順次拡大していく方向である。チラシやホームページによりPRしているが、まだ十分ではないと思う。市町村の図書館や学校図書館のネットワークを通じてしっかりと浸透させていきたい。

#### 【委員】

昨年度も申し上げたが、施策が多すぎる。要望するほうは、新しい要望はどんどん出てくる。職員を増やせと言っても増えない。それを少ない人数でやっていかななくてはいけない。もう少し限定してほしい。図書館で将来のことでも何でも分かるわけではない、未来のことは誰にも分からない。

これはいい、これもやっていこう、次はこれもいい、これは大事だからこれもやろう、と毎年項目を増やしていく。実際にどうやっているかは知らないが、全員が集まって評価するにも人がいない状況となる。予算がないのであれば絞っていくことをこの協議会で、提案すべきではないか。

資料も、数値的にデータが古く新しいデータが必要なもの等は、少しずつ更新していく

しかない。そんな中、要望に応じ施策を増やししながら、今までどおりやっていくのは難しい、対応できないだろう。人口も減る中、あれやこれやで身動きがとれなくなるのが目に見えている状況である。協議会の側でも考えいくべきではないか。

#### 【事務局】

今現在の県立図書館ビジョン、アクションプランを2020年度まではしっかりやっていきたい。ただし、限られた人、予算の中での取組であるため、様々な事業の優先順位をしっかりと意識しながら進めていくことになるかと思う。今委員が言われたとおり、人口減少社会が進み、3年後5年後もっと状況が変化する中、今の県立図書館の規模、ボリュームがそれに適したものなのかどうか、体制も含め、そこは普段の見直しなりしっかりとした視点をもって考えていくべき事項だという認識でいる。